HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	”わたし”は機械で取り戻せるのか？ ： 討論劇で問うブレイン・マシン・インターフェース開発の是非
Author(s)	鈴木, 伶音; 鈴木, 朝子; 四倉, 直弥 他
Description	2019年度対話の場の創造実習．劇団DoSTEP_2019.「”わたし”は機械で取り戻せるのか？～討論劇で問うブレイン・マシン・インターフェース開発の是非～」．主催:北海道大学高等教育推進機構オープンエデュケーションセンター科学技術コミュニケーション教育研究部門（CoSTEP・コーステップ）．共催:札幌市資料館．上演日:2020年1月26日 14時～16時．会場:札幌市資料館刑事法廷展示室．※台本の監修は蔵田伸雄教授（北海道大学大学院文学研究院 教授）による
Issue Date	2020-01-26
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/76819
Type	learning object
File Information	tourongeki2019_flyer.pdf, 討論劇フライヤー

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北海道大学 CoSTEP 公演
討論劇と評決ワークショップ

“わたし”は機械で取り戻せるのか？

討論劇で問う
ブレイン・マシン・インターフェース開発の是非

討論劇のあらすじ

「脳神経科学推進法」が制定された2030年の日本。社会的に影響が大きい脳神経科学研究の是非を市民が議論し、研究を進めるかどうかを決める場として「脳神経科学研究についての市民法廷」が実施されることとなった。脳の認知機能を補完するためのブレイン・マシン・インターフェースの開発について、肯定する側と否定する側の証人が、市民陪審である観客へと訴えかける。さて、市民法廷はどのような判断をくだすことになるのだろうか。

観劇のご案内

日　時　2020年 1月 26日（日）　14:00 - 16:00 （13:30 開場）

会　場　札幌市資料館 刑事法廷展示室
札幌市中央区大通西 13 丁目 （011-251-0731）

参　加　無料／評決ワークショップ参加希望者はフォームでの事前登録
costep.open-ed.hokudai.ac.jp/costep/formmail/160/

主　催　北海道大学 CoSTEP 対話の場の創造実習「劇団 DoSTEP 2019」

共　催　札幌市資料館

プログラム ＊ワークショップの内容は研究報告のため録音・録画を行います

40分ほどの討論劇を鑑賞後、ワークショップ参加者は、陪審員として議論の対象となった「ブレイン・マシン・インターフェースの開発」の是非について評決を行います（50 分）。その後、評決の発表と討論劇のエンディングが上演されます。ワークショップに参加せずに討論劇のエンディングを見たい方は、その間お待ちいただくことになります。ご了承ください。

イベント詳細／お問合せ

costep.open-ed.hokudai.ac.jp/costep/contents/article/2073/

種村 剛 tanemura@costep.hucc.hokudai.ac.jp

このイベントは、科学研究費助成事業「演劇を用いた科学技術コミュニケーション手法の開発と教育効果の評価に関する研究（基盤研究 C 19K03105）」（研究代表：種村 剛）の助成によって実施されている。

デザイン ： 本平 航大